

母乳通信 第23号

母乳通信は、しんしろ助産所の母乳育児に関する考え方と手技をまとめた通信です。
母乳で育てたいプレママ・ママを応援します。

母乳育児中のママが困ることで多いのが“授乳中におっぱいを噛まれること”

ママとしては授乳がつかなくなってしまったりすることがありますが、
子どもは決してママを困らせようとしているわけでも、授乳を嫌がっているわけでもありません。

赤ちゃんがおっぱいを噛む理由と対策

●歯が生えかけてきてむずかゆい●

おっぱいを噛む理由として多いのが、歯が生え始める時の歯茎のむずかゆさによるもの。白い歯がうっすら見え始めている、「ブーブー」とつばを飛ばす、よだれが多くなる、しきりに手を口に入れる、おもちゃやタオルなどを噛むなどの様子も歯が生え始める時に見られます。

歯茎のむずかゆさを和らげるために歯固めのおもちゃや授乳前の歯茎のマッサージを試してみましょう。歯固めを冷やしたり、冷やしたガーゼで歯茎を拭いてあげるのも効果的です。

●ママが授乳に集中していない●

一生懸命おっぱいを吸っている時、ママが誰かと話していたり、テレビやスマホに夢中になっていると、赤ちゃんはママの気を引くために噛むことがあります。

おっぱいをあげられる期間は長い子育てから考えるとほんの少しの期間です。授乳中はなるべく授乳に専念し、赤ちゃんの様子を気にかけてあげるようにしましょう。

●遊び飲み・気が散る●

生後4～5ヶ月頃は周りに興味が出てくる時期です。ちょっとしたことで気が散って赤ちゃんが授乳に集中せず遊び飲みをしたり、授乳の終わり頃になると不意に噛むことがあります。

赤ちゃんが授乳に集中できるよう静かな部屋・薄暗い部屋で授乳したり、授乳用ケープが効果的なこともあります。赤ちゃんが一生懸命おっぱいを飲んでいるときは、舌が歯より出ている、乳首を噛むことはできません。もし舌が引っ込んで遊び飲みしだしたと思ったら切り上げましょう。

●たまたま噛んだ時のママの反応が楽しくて繰り返す●

たまたま噛んだ時のママの反応をママが喜んでいると勘違いして、ニヤ～と嬉しそうな様子を見せ繰り返すことがあります。

赤ちゃんに「噛むのはダメ!」と伝えることも必要です。ただ、大きな声を出すとびっくりして哺乳拒否につながることもあるので冷静に伝えるように気をつけましょう。

噛まれてしまった時の対応

乳首を噛まれたまま赤ちゃんを引き離すと乳頭を傷つけてしまいます。そういう時は、赤ちゃんを引き寄せたり、鼻をつまんだり、口に指を入れて授乳を一旦ストップ。“噛んだらおっぱいがもらえないこと”を伝えていきましょう。